

中山久蔵 寒地稲作成功150周年

確率100万分の1の遺伝子 奇跡の北海道イネ 講演会

北海道イネは世界的にも稀でオリジナルなイネ科植物だった!?

ご来場者には
新米をプレゼント

奇跡の北海道イネ講演会を100倍楽しむ!!

「北海道イネ」の成立(北農86巻4号掲載論文)
抄録とPDFファイルで"予習"ができます



10月29日(日)

13:30~16:00

(受付開始は13:00より)

司会 安達祐子 (北海道観光大使、フリーアナウンサー)

場所 札幌テレビ塔2階ホール

会費 1,000円 おみやげ付き

対象 北海道米が大好きな方

その他、生産者、流通関係者、農業関係者
(定員150名で応募は締め切ります)

奇跡の北海道イネ講演会実行委員会

お問い合わせ

☎ 011-733-8158

事務局 (株)千野米穀店 徳永善也

基調講演 藤野賢治 (農研機構)

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
企画戦略本部所属。令和5年日本育種学会賞受賞

特別講演 安宅一夫 (酪農学園大学名誉教授)

主催 奇跡の北海道イネ講演会実行委員会

共催 株式会社千野米穀店
一般社団法人 日本米穀商連合会
一般社団法人 The Earth Cafe

協賛 ホクレン農業協同組合連合会
北海道中央食糧株式会社

後援 北海道、(一社)北海道地域農業研究所、
北海道イネ研究会、札幌商工会議所
日本農業新聞 北海道支所 (順不同)

ご参加はQRコードから
お申し込み下さい。



URLからもお申し込みできます

<https://forms.gle/R51iWWxitcVamktQA>



奇跡の北海道イネ講演会実行委員会 設立趣意書

今年は中山久蔵が寒地稲作に成功して150年目にあたる記念すべき年になります。かつて、食味の悪さから「猫またぎ米」などと揶揄されてきた北海道のお米も、長年の品種改良の結果、日本の米を代表するほどの美味しさと生産量を誇るまでになり、最近では世界中に輸出されるようになりました。

研究者や生産者の努力によって、その価値を著しく高めた北海道米は最新の研究によって、世界で栽培されているイネと北海道イネは高緯度寒冷地適応性遺伝子が異なることが明らかになりました。高緯度寒冷地である北海道で栽培されているイネ品種は、北海道でしか栽培できない、北海道だけの特別なお米なのです。

このたび、この北海道イネを実現した遺伝子の研究成果によって令和5年日本育種学会賞を受賞された農研機構 藤野賢治先生にご講演いただく機会を得ることができました。

「奇跡の北海道イネ」講演会の開催によって、北海道の米づくりの歴史と北海道米の未来を考え、知識を深めることを目的に、生産者、販売者、消費者の垣根を超えて北海道米に関わる様々な立場の関係者とイネ遺伝子研究の現状を共有したいと考えています。

奇跡の北海道イネ講演会実行委員会
代表 徳永 善也（千野米穀店）

演者紹介

基調講演 藤野賢治（農研機構）

1968年生まれ、北海道洞爺湖町出身。北海道大学大学院修了。農学博士（北海道大学）。民間企業をへて現職。専門は作物のゲノム育種学。国際学術誌（米国科学アカデミー紀要他）に40報の論文を発表する。国際学会での講演を行い、インターナショナルに研究活動に取り組む。新聞・TV取材多数。「国民の豊かな生活の実現」をモットーに研究しています。2020年まで北海道在住。

「イネ高緯度地域適応戦略に関する遺伝・育種学的研究」にて令和5年日本育種学会賞を受賞。

特別講演 安宅一夫

酪農学園大学名誉教授。酪農学園大学元学長。1947年、北海道壮瞥町の稲作農家の長男として生まれる。帯広畜産大学大学院修了。農学博士（東北大学）。専門は、乳牛の栄養と飼料、特にサイレージの発酵制御に関する研究。日本草地学会賞、畜産技術協会賞、宇都宮賞を受賞。著書には、『最新サイレージバイブル』、『フォーレージバイブル』、『日本酪農の展望』などがある。

協賛広告

おいしい「ゆめぴりか」を、

守り続ける人がいる。



基準を満たす「ゆめぴりか」には、このマーク。



ゆめぴりか良質米生産出荷表彰「優秀表彰」5年連続受賞者



基準を満たす「ゆめぴりか」には、このマーク。



生産者から消費者へおいしい「ゆめぴりか」を届けるには、生産者から「ゆめぴりか」を仕入れる販売者まで、それぞれ「ゆめぴりか」のマークを認める必要があります。このマークを認めることで、安心して「ゆめぴりか」をおいしくいただけます。



協賛広告



北海道中央食糧株式会社

〒060-0908 札幌市東区北8条東2丁目1番25号

TEL(011)731-4311

<https://www.kinoukan.co.jp/>

協賛後援 ホクレン農業協同組合連合会、北海道中央食糧株式会社
北海道、一般社団法人北海道地域農業研究所、北海道イネ研究会、札幌商工会議所、日本農業新聞 北海道支所
(順不同)